

令和元年 12 月

魚津市定例記者会見



日時：令和元年 11 月 29 日（金） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 40 分

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、NHK、KNB、チューリップテレビ、NICE TV、ラジオミュージック
市当局出席者：市長、副市長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長、教育委員会事務局次長、企画政策課長

1. 市長からの発表事項

(1) 令和元年 12 月市議会に提案する補正予算の主な内容について

- ・歳入増対策として、ふるさと寄附をはじめ財源の確保に努める一方で、本年度より実施している給料等の臨時的削減の予算への反映、繰越金を活用した財政調整基金への積立等を行う。
- ・一般会計補正額 282,361 千円（H30 年度 12 月補正は 569,751 千円 △50.4%）
12 月補正後の一般会計予算総額 18,069,799 千円
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(2) 魚津の「りんご」と富山調理製菓専門学校が初めてコラボします！

- ・魚津の「りんご」が富山調理製菓専門学校の授業の実習教材として、初めて採用されることとなった。これに伴い、りんごの収穫体験などを行う。
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(3) 「(仮称)魚津風景街道パートナーシップ連絡協議会」結成総会を開催します

- ・魚津市の海岸道路と周辺地域を「日本風景街道」として登録するべく、関係団体と勉強会などを開催してきた。今回、賛同いただける団体と「(仮称)魚津風景街道パートナーシップ連絡協議会」を結成することとなり、結成総会を開催する。
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(4) ボッチャ体験交流会を開催します。～魚津市×北陸電力(株)新川支店連携イベント～

- ・2020 年東京オリパラに向け、市民の誰もが健康で過ごすことができる市民スポーツ普及の一環として、ボッチャ競技の普及を目的に、ボッチャ体験交流会を開催する。
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈産業建設部長〉

- ・ 2019 イルミラージュUOZU点灯式 (12/6)
点灯期間 令和元年12月6日(金)～令和2年2月29日
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)
- ・ 初セリ (1/4 おさかなランド)

3. 質疑応答の内容

「パナソニック・タワージャズ セミコンダクター関係」について

《記者からの質問》

市の歳入に大きく貢献していると思われるパナソニック・タワージャズについて、昨日、パナソニックの半導体事業撤退関連の話があったが、その後、市のほうにパナソニック、若しくはタワージャズから連絡等はあったか。

《回答》(市長)

新たな連絡はない。

「県知事選挙」について

《記者からの質問》

県知事選挙について、今、水面下で動きが出てきている。県内すべての市町村の首長に伺っているのだが、県知事にどういった人材を求めているか。また、これまでの石井知事の県政についてどのように見ているか

《回答》(市長)

まず、知事に求めるもの、知事像については、何よりも公正無私・公平無私である姿勢、人物であることが重要であると思っている。県も市町村も住民としては、同じであるから、広域自治体として15市町村をバランスよく支援する姿勢を持っていただきたいと思っている。更には、地方にとっては厳しい時代が進んでいることから、地方の立場で、国に対してもしっかりとものが言え、政策提案ができるそういったスタンスが必要である。また、情熱があり、元気、体力が必要であると思っている。

《記者からの質問》

今、言われたような視点で石井知事のこれまでをどのように思うか。

《回答》(市長)

長い間、仕事を見てきて思うことは、目標を実現させるようという意志や力は強いと思う。高いハードルがあっても、何か手はないかと諦めずに行っていく意志は、非常に強く感じたところである。

《記者からの質問》

体力面についてはどのように思われるか。

《回答》(市長)

体力はあると思う。

「令和元年 12 月市議会に提案する補正予算案」について

《記者からの質問》

財政健全化計画の本格実施前に、初年度だけで R6 年度基金積み上げ目標額 10 億円の 4 分の 1 程度を積み上げられたということになるが。

《回答》（市長）

この 8 億円あまりの実質収支のうち、約半分は、その前の年に基金を崩して財源にしているものであるため、余裕があるということではない。ようやく元のレベルに近づいただけである。

今年はこのように出来たが、来年度に同じようにすることは難しい。今回は 4 億円あまり基金を崩したものを戻した、その段階にもっていったと理解いただいたほうが正確である。そのうえで、このあと残る 5 億円あまりを、今後 5 年間かけて、どのように積み増していくかが、我々にとっては努力を要することとなる。

《回答》（企画総務部長）

12 月補正予算案資料 4 ページの黒の太線で囲ってあるところに⑤実質収支 8 億 8262 万円とあるが、これについては、前年の 5 億 5294 万円がそのまま入っているものである。それを除くと単年度収支 3 億 2967 万円の収支プラスであることになる。しかしながら、資料下部にある囲み（基金の取崩しについて）をみると、財政調整基金は崩さなかったが、その他基金を 4 億 3 千万円崩している。そのため、実質 1 億円が、まだ不足していたという見方ができる。前年から繰越金としてきたものなどを一旦戻すというものである。⑥の部分の 3 億円余りの、まだ戻していない部分については、今後、雪などが多く降った場合などは、除雪費用に充てる必要がある。その 3 億円について今年度と同じように基金に戻せるかは、今後の状況をみての話である。

《回答》（市長）

資料同ページの平成 30 年度①の 192 億 7 千万円のなかに、4 億 3 千万円（H30 年度基金の取崩し）と前年の 5 億 5 千万円が入っている。そのような繰越がないことや基金を使えないとすると、実質 1 億円ほど厳しいということになる。今後、経常的な経費の効率化などを行わないと、新たに財政調整基金に積んでいく財源はないという状況に変わりはない。

《記者からの質問》

5 億円分厳しいという話が、実質 1 億円で済んだという話ではないのか。

《回答》（市長）

予算を立てるときに、前年度の決算をどれだけ見込むかも関係してくる。少し余裕をもって予算を組もうとすると、財源が必要になるので基金を崩さなければならない。シビアに行おうとすると歳出が抑えられるが、そこまでなかなか見通しが立てられないということがある。これは財政見通しとリンクはするのだが、いずれにしても厳しいということに変わりはない。

《記者からの質問》

補正予算案の魚津水族館 LED 照明器具賃貸借事業について、消費電力料の削減は5年間で250万円となっているが、250万円安くするために、5年間で286万円の賃貸借料を使うということは不思議な感じがしたが、これは何か意味があるのか。

《回答》（市長）

厳密な損得の話でいえば、そういう話もあるかと思うが、一方で館内照明環境を快適にという部分もある。このまま現在の照明を使っていた場合、そういった機器の更新や、館内のお客さまや、展示などへの効果等を考えて、今回のLED化ということである。

《記者からの質問》

リース期限終了後は無償で引き取りということは、照明器具を分割で取得するようなイメージか。それともリース期間終了後、リース会社が持って行ってしまうということか。

《回答》（市長）

分割で取得と同じである。

《記者からの質問》

そういうことであれば、LEDの寿命は5年以上あるということで、5年後は、トータルとして1年間に50万円分電気料が浮く形か。

《回答》（市長）

そういうことである。

《記者からの質問》

給与等の臨時的削減について、当初予算の発表前後に聞いていたと思うが。

《回答》（企画総務部長）

当初予算を作成した時点では職員給与分の予算は確保しつつ、職員組合と給与削減の話はしていた。その後、予算発表する前に職員組合の合意が得られ、予算発表では削減するとしたが、予算書の印刷等の関係もあり、当初予算には反映できてなかった。実績としては、今年度の当初から給与削減していた。今回の12月補正で、予算としても初めて反映させた形である。

《回答》（市長）

ギリギリのタイミングで提案し取組を決めたので、当初予算上は間に合っていなかった。職員にも迷惑をかけた。

「魚津の「りんご」と富山調理製菓専門学校のコラボ」について

《記者からの質問》

この事業は今年の「ALIVEプロジェクト」発表があったものの中から採用されたものだと思うが、採用後の作業は全部市で行ったものか。

《回答》（市長）

農林水産課を主管課とし、提案した職員がそれに加わり、更に「^{ヴィータ ディ フルッタ}Vita di frutta」の市内の果樹農家とチームになって、製菓学校等へのアプローチをずっと続けていたということである。

《記者からの質問》

「^{ヴィータ ディ フルッタ}Vita di frutta」は、りんごだけでないと思うが、これは第一弾という捉え方でよいか。

《回答》（市長）

そういうふうに広がりが出てくれば嬉しいと思っているが、まずは「りんご」を使って、しっかり青池学園でメニューとして使ってもらおうということである。

《記者からの質問》

「クリスマスランチ」の料金はいくらになるか。

《回答》（産業建設部長）

2,500円である。

「令和元年12月市議会に提案する補正予算案」について

《記者からの質問》

補正予算案に戻るが、「ふるさと寄附推進事業」について、令和元年度10月末時点の977件、2121万円は過去最多件数、最多金額になるのか。

《回答》（市長）

最多件数、最多金額である。

《記者からの質問》

増えたのは、サイトの数を増やしたのが主な要因か。

《回答》（市長）

サイトの数を増やしたことと、返礼品の品揃えを増やしたことの二つである。

《記者からの質問》

品揃えは、どんなものが増えたのか

《回答》（企画政策課長）

人気のあるものでは、1万円を寄附すると「ホタルイカの素干し」、1万5千円寄附で「ベニズワイガニ2杯」、あとは「魚津産コシヒカリ10キロ」が人気である。その他に、漆器の弁当箱「わっぱ弁当」などが人気である。

《記者からの質問》

これらのものを新たに拡充し、寄附が増えたのか

《回答》（企画政策課長）

元々あるものもあるが、業者と調整して、ふるさと納税用の品物を開発するなど、

順次見直しをかけている。今現在で約 130 品目の返礼品がある。(資料は 10 月末現在で 97 件) 随時、返礼品は見直し追加をしている。

《回答》(市長)

因みに、11 月 28 日時点では、寄附件数・金額は 1,524 件で、3557 万 8 千円である。最近の増加具合が、かなり大きいので今回の補正で対応していく。

《回答》(副市長)

ふるさと納税は 11~12 月が多く、年間の金額の半分程度はこの時期に入ってくる。

《回答》(市長)

見込額(最大)の 8000 万円までは難しいかもしれないが、かなりの金額が入ってくると見込まれる。

《記者からの質問》

昨年 11 月末の状況はどうだったか

《回答》(企画政策課長)

件数は 529 件、金額は 1046 万 2 千円である。

《記者からの質問》

返礼品の数が昨年の約 2 倍になっているが、どこが選定して返礼品の中に入れているのか。

《回答》(企画政策課長)

市からの声掛けもあり、業者からの申し出もある。

《記者からの質問》

最終的な判断はどこで行っているか

《回答》(企画政策課長)

ふるさと納税の制度としての縛りもあるため、それをクリアすれば基本的に載せている。載せ方も色々あるので、そのあたりは市がアドバイスをを行い、業者と一緒に取り組んでいる。

「(仮称)魚津風景街道パートナーシップ連絡協議会」について

《記者からの質問》

パートナーシップ連絡協議会は任意団体であるか。

《回答》(市長)

組織としては任意団体である。登録については、北陸地方整備局等が設ける会で認められる必要がある。

《記者からの質問》

これは魚津のどこからどこまでを風景街道として登録しようとしているのか。また、いつ頃の登録を目指しているのか。

《回答》(市長)

来年のできるだけ早い時期にできないかと思っている。エリアとしては魚津の海岸

道路全体的と思っているが、そのあたりを含めてこれから検討していきたい。

《記者からの質問》

これに絡んで「魚津浦の蜃気楼」についての予算がつく雰囲気もあるのか。

《回答》（市長）

そういうものも併せて、しっかりアピールしていくべきだと思っている。

《記者からの質問》

海岸線約8kmとあるが、しんきろうロードにほぼ被るのか。

《回答》（市長）

しんきろうロードと被ることになる。

「令和元年12月市議会に提案する補正予算案」について

《記者からの質問》

ふるさと寄附について、魚津市民が他の自治体に寄附している額はどのくらいになるか。

《回答》（企画総務部長）

今年については、まだ把握できていないが、魚津から他市に寄附される額も年々増えている。昨年も入ってきた金額とほぼ同じ金額が他市に出ている。

魚津に入ったものは丸々寄附金として収入として入るが、魚津から出て行ったものは、仮に1億円出て行った場合でも交付税で国から7500万円入ってくる仕組みになっている。実質2500万円の収入減にとどまる。

《記者からの質問》

例えば8000万円入ってきて、8000万円出て行ったら、6000万円は戻ってくるといふことか。

《回答》（企画総務部長）

8000万円魚津に入ってくる分は寄附金として入るが、8000万円魚津から出ていく方は税収が落ちるので、75%が国から交付税で入ってくる仕組みである。交付税をもらってないところは、丸々減収となる。

《記者からの質問》

ふるさと寄附の出入りがほぼ一緒ということは、かなりのプラスということか。

《回答》（企画総務部長）

今のところはそういうことである。

《記者からの質問》

基金残高の回復に関して、収支がある程度確定しての割り振りであると思う。

他の市町村で聞いたところでは、財政調整基金を財政健全化の目安にして切り崩さないようにしているところある。また、一方で枠組みを変えて出来るだけ財政調整基金を減らすことしているところもある。財政調整基金に対してどのような狙いをもっているのかを質問したい。

《回答》（市長）

それについては、ある程度相対として財政調整基金が多くある場合に、議論ができる対象となる。魚津の場合は、大雪が降ったら底をつく状況であるので、少なくとも自由度の高い財政調整基金を一定程度持っていなければならないということが背景にある。

《記者からの質問》

自分もそのように思っていたが、他の自治体で聞いたところでは、国から財政調整基金を狙われているくらいだったら、減らしたほうが良いということで、組み替えているところがある。少ない魚津の基金のなかでそれを狙われてしまったらどうするのかということに疑問に思った。

《回答》（企画総務部長）

おそらく、それについては、標準財政規模の10%と言われている財政調整基金が50~60%もある自治体については、国からの交付税が要らないのではないかと議論を危惧して、財政調整基金の残額を落とそうという考えであると思う。魚津の場合は余裕がなく、この少ない財政調整基金を国が減らそうということをいうとはありえないと思っている。特定目的基金を持っていても除雪などでは使えない。一定程度の自由に使える財政調整基金は確保しなければならない。

《回答》（市長）

今回も公共施設整備基金を崩さないことにして戻した形になる。それで3億4800万円を維持した。庁舎の建設などを考えれば、ここをもっと増やしていきたいという気持ちはあるが、それをしてしまうと、大雪や災害などの場合に対応できないことになる。

「来年度当初予算」について

《記者からの質問》

来年度予算について、この厳しい状況のなかでどのような規模を考えているか。

《回答》（市長）

規模ありきの話ではないが、入ってくる一般財源が限られているので、一般財源ベースでみた場合は少なくとも今年度より厳しくなるのではないかと考えている。国やその他の財源、あるいは起債の活用ができるようであれば、予算規模は少し膨らむかもしれない。そこは難しいところである。とにかく一般財源は厳しいので、今年度以下の一般財源の支出に抑えないと、新たな財政調整基金の積み増しもできないだろうと思っている。これから予算編成が始まるが、色々なニーズがあるなかで、ひとつひとつ選んで優先順位をつけていくという作業をしていく。

「次期魚津市長選挙の出馬表明」について

《記者からの質問》

次期の市長選の出馬表明のタイミングはいつ頃になるのか。

《回答》（市長）

今はタウンミーティングや行財政改革に毎日走り回っている状況である。財政健全化という目の前の目標に向かって、ある意味、一日一日が任期というふうな思いでやっているのでもう少し時間をいただいて考えたいと思っている。